

調査研究に関する研究計画書

提出年月日	令和3年6月29日	部名	微生物部		
調査研究課題	宮崎県における梅毒の流行状況の解析				
調査研究体制	主任研究者	水流奈己		研究区分 (小分類)	
	その他の研究者	宮原加奈、成田翼、三好めぐみ、吉野修司、杉本貴之			
	調査研究期間	令和4年度～令和6年度（3か年間）			
	調査研究費	予算項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
		国 費	千円	千円	千円
県 費		500千円	500千円	500千円	
その 他	千円	千円	千円		
	合 計	500千円	500千円	500千円	
調査研究の目的	<p>日本における性感染症の発生動向調査によると、梅毒は2013年より急増し、2018年には7007件の届出があった。その後、2019年には6642件、2020年には5871件と減少傾向を示している。本県においては、2020年に感染症法による届出が開始された1999年以降で最多の40件の届出があったが、2021年においても、第22週時点ですでに42件の届出があり増加が続いている。</p> <p>梅毒は、血清学的な検査が一般的で、菌の培養が困難であることから、病原性や疫学的な解析についての研究は、国立感染症研究所等の一部の研究施設で実施されているのみである。</p> <p>本県における流行状況等を把握するため、梅毒陽性検体の確保を行い、梅毒の遺伝子検出を検討し、分子疫学的な解析を実施する。</p>				
調査研究内容	研究の実施計画	協力医療機関等から梅毒患者及び梅毒疑い患者の検体（主に病变部から分泌液を採取したスワブ）を提供いただき、遺伝子検査を実施する。陽性だった場合には、これまでに報告のある多型遺伝子を標的とした型別を実施する。			
	技術手法	遺伝子検査（PCR、enhanced CDC typingを主とした遺伝子型別）			
	年次計画	令和4年度	これまで発生届のある医療機関を中心に、検体の確保について協力を依頼する。梅毒の特異的遺伝子をターゲットとしたPCR法の検出系の検討を行う。		
	令和5年度	梅毒の特異的遺伝子をターゲットとしたPCR法の検出系の検討及び検体からの検出を行う。			
	令和6年度	多型遺伝子を標的とした遺伝子型別を実施する。			
調査研究の効果等 〔行政効果・県民ニーズへの波及効果等〕	梅毒については、培養が困難であることから、感染経路推定、流行型の把握、リスク集団の推定などにつながる分子疫学的な解析がほとんど実施されていない。本県における、現状の解析を実施し、これまでに報告のある海外や国内の情報と比較することで、適切な感染予防へつなげる。また、遺伝子検査による梅毒の検出系を構築することで、第1期の早期（血清診断陽転前）の診断につながることとなり臨床現場への還元もできる。				
備考					